

# 苗場山麓 ジオパーク

Vol.  
59

## 振興協議会だより

〔発行日〕令和5年2月27日  
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室  
〔お問い合わせ〕025-765-1600



### 室長日誌 一祝・苗場山麓ジオパーク再認定ー

12月16日、再審査結果通知の朝を迎えました。“まな板の鯉”の心境で職場に向かいました。この4年間、さまざまな制約の中でスタッフと協議し、各部会の活動を見守り、ジオパークネットワークの活動を継続してきました。その持続的な活動を裏付けるものが「ジオパークだより」の発行でした。大きな遅延もなく、また、各地のジオパークの原稿を組み込み発行できたことは、活動のバロメーターだと考えてきました。

4年に1度の再審査、このたびは2回目の再審査でした。唐突に再審査を受けることよりも、1年前にプレ再審査を実施し、問題や課題を浮彫りにして、その対応策と改善を心がけ臨んだ再審査でもありました。精一杯取り組んできた4年間でしたので、自分なりの自信はありましたが、他者の視点と評価は別物です。それが責任者としての不安の増大に拍車を掛けていました。自らの率先した旗振りが弱い「観光的振興」へのアプローチは、不安の塊でありました。1回目の再審査では「観光のマーケティング・プロモーション」が改善点として指摘されました。横文字の内容を進めるには、部外者との連携によって成果を生むものであり、それにはそれ相当の予算の確保が必須でした。しかし、この4年間における人口減少に伴う財源減少に絡み、具体的な委託事業は皆無でありました。

苗場山麓ジオパーク活動を運営する津南町と栄村は、実は広域観光圏の「雪国観光圏」の一員であることが大きなメリットです。すなわち、苗場山麓の様々なアクティビティをジオ・エコ・カルチャーと絡めてプロモーションいただいた現実感謝とその

映像に観るクオリティーの高さを再認識しました。また、観光圏で実施したマーケティングでは、苗場山麓における多様なアクティビティの中でも「体験活動」や「トレッキング」への志向が高いことを知りました。これら二つの外部的成果は、4年間の観光的振興の基盤をなす情報でありました。また、再審査で蓋を開けてみれば、観光部局によるジオパークとの積極的連携事業に頭が下がりました。ありがとうございました。

さらには、広報部会の高校生との取り組みや、資源探査部会の地道な資源探査と整備活動、そしてガイド部会の“歩いて楽しむツアー”など、数々の言動が増大していた不安をひとつひとつ打ち壊してくれました。

さて、多くの皆様のご尽力とご協力で第2回目の再審査で“再認定”を掴み取ることができました。令和8年度の第3回目の再審査に向けて、進めることが明確化しました。一つは「基本計画の策定」です。じっくりと協議して作り上げるものであり、未来の山村運営と深く関わる内容だと確信しています。地域のアイデンティティの中に、教育＋観光＋社会福祉を組み込み構築する必要性があり、その基盤にジオ＋エコ＋カルチャーが横たわります。それを熟知して基本計画を策定することが、苗場山麓の独自性を発信することだと思います。二つ目は、拠点施設と災害学習施設との有機的な整備と運用を持続的に進める方策を思考することです。今後、皆様のご指導を受け、確実な一步を積み上げられるよう努力する所存であります。このたびの皆様の言動に衷心より感謝を申し上げます。







## 日本民家集落博物館「信濃秋山民家(旧山田家住宅)」を訪ねました

かつて、栄村上野原集落にあった古民家が移築された日本民家集落博物館に行ってきました。

大阪府豊中市にある日本民家集落博物館には、秋山郷長野県栄村の上野原にあった古民家(旧山田家住宅)が移築復元されています。この古民家は、国の重要文化財に指定されています。昨年度、この古民家の茅葺の葺き替えが行われました。この葺き替え修理工事に伴う費用のためのクラウドファンディングが行われ、栄村秋山郷観光協会は、寄付をしてくださった方への感謝として返礼品を贈られました。苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局でも、ホームページや振興協議会だより49号に寄付募集の紹介をさせていただきました。その結果、令和4年3月に無事に竣工となり、先日(令和5年1月)、現地を訪れた際、古民家の完成した様子をご案内いただきました。

屋根だけではなく、壁も茅葺であり、全てが土間でその上に茅を敷き、さらに藁を敷いていました。囲炉裏は土間に配置され、竈は入り口近くにありました。また、奥の大黒柱の2本は、礎石をもたない掘立て柱となっていました。腐敗しないよう柱に「にがり」を撒いていたそうです。

現地では、1月7日(土)から2月26日(日)まで、葺き替えの様子を紹介する写真展が開催され、合わせて、栄村を紹介する動画を放映し、苗場山麓ジオパークなどのパンフレットを置いていただきました。また、2月19日(日)には、「家たび栄村 秘境・秋山文化と景観」をテーマにオンラインで栄村と中継で繋ぐイベントも行われました。

ぜひとも、「信濃秋山の旧山田家住宅」のある大阪・日本民家集落博物館へお訪ねいただければ幸いです。将来、苗場山麓ジオパークから大阪へ、そして、大阪から古民家のふるさとである苗場山麓ジオパークを巡るツアーが開催されることを願ってやみません。



保存修理工事が行われた民家



掘立て柱



## 第6回苗場山麓ジオパーク民学官(CAP)会議開催

1月27日(金)、栄村役場かたくりホールにて、3年ぶりとなる対面での民学官会議が開催されました。これは、4人の部会長、6人の学術指導委員、会長をはじめとするジオパーク関係者が、翌年度の事業および予算について意見交換を行うものです。会議の中では、再認定に関する報告も行われ、今後4年間での基本計画策定、観光振興、部会同士の交流、ジオガイドの質の向上などの課題点を踏まえ、半年以内に、日本ジオパーク委員会にアクションプランを提出することが共有されました。

各学術指導委員から、ジオと縄文などの歴史文化をさらにつなげること、活動やデータの見える化、TwitterなどのSNSを活用したさらなる情報発信の強化、刊行物をインターネット上で閲覧できる対応など様々な意見や提案がされました。事務局ではこれらを受けて、アクションプランの作成に着手します。次号では、学術指導委員からのコメントを詳しく紹介いたします。



## 大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介⑫～



### 【あんぼ】 四季の杜(道の駅 信越さかえ内)

〒389-2702 長野県栄村北信 ☎0269-87-3116

営業時間9:00～17:00 定休日:冬のみ不定休

#### ジオストーリー

「あんぼ」は、まだ米がたくさん採れなかった時代、くず米、稗、粟、栃の実などを皮に用い、野菜を味噌などで味付けして中の餡にした伝統食です。これにアレンジを加え、皮にはコシヒカリの粉、中には炒めた野沢菜やキノコ、小豆餡などを入れています。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。  
お問い合わせ: 津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454



認定ジオガイド  
が伝える

# ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、  
もの、ことなどを紹介していきます。

石澤憲一郎さん



## 自然と共存してきた暮らし（ガイド No.50 石澤憲一郎さん）

私にとって、苗場山麓ジオパークエリアにおける最大の魅力は、秋山郷の人々が森や自然と共に生きてきた暮らしと文化です。「マタギ」の文化や「焼畑」、森林と共に生きてきた人々の暮らしの痕跡が私を魅了してやまないのです。

1828年に秋山郷を訪れた鈴木牧之は、江戸末期の秋山郷の生活ぶりを伝えてくれています。混沌とした今に生きる私たちにとって意義深い教訓と興奮を伝えてくれます。

鈴木牧之は秋山記行における旅先で、度々お茶を振舞われますが、当時秋山の人たちがお茶を手に入れるためには現在の中野市まで買いに行く必要があったとのこと。そのため秋山郷では、マユミの葉を採って蒸しあげて加工し一年中お茶として飲んでいました。小赤沢集落の「ユモトマユミ」はその大きさだけではなく地域の生活を支えてきた大切な樹木だったことが、栄村の天然記念物として大切に保存されていることから伺い知れます。また、かつて大赤沢では「ウリハダカエデ」の葉をお茶として使っていたという話を伺ったことがありますが、この「ウリハダカエデ」は私が幼いころ「チャンバラごっこ」に使用した馴染み深い木でした。

ところで、昭和の初期まで秋山郷では「焼畑」が行われていたようですが、戦後の拡大造林の波に呑み込まれ、それまで「焼畑」が行われていた場所に杉等の植林が行われてきました。しかし、植林に適さない場所はそのまま放置され陽樹であるシラカバやケヤマハンノキ等に植生が変化したという歴史もあるようです。また、集落によっては生活圏から離れた不便な場所から順に耕作放棄され、その放棄地がシラカバ林等に遷移していった場合もあるようです。人々の自然への働きかけによって森林や景観は時間とともに変化していきますが、ユモトマユミやシラカバ等の植生を見るにつけ生活の痕跡と歴史を妄想できるのも楽しみの一つです。



ウリハダカエデ



ユモトマユミ：栄村天然記念物

このように、森林や樹木を観察すると生活（暮らし）や歴史が見えてきます。豊かな自然に囲まれて柔軟に逞しく生きてきたその「暮らし」と草木に対する人々の向き合い方が、私にとって最大の関心事であると共に非常に魅力的な存在なのです。



シラカバ





## 突撃しよう!となりのジオ便り～山陰海岸ジオパークからこんにちは～(山陰海岸ジオパーク 山本 早紀)



京都府京丹後市：立岩



鳥取県岩美町：浦富海岸

質年代の境を決める指標の一つとしても使われています。

山陰海岸ジオパークの地形地質、自然、文化を満喫するには、「山陰海岸ジオパークトレイル」がおすすめです。全長約230km、全27のコースは初心者からベテランまで楽しめる、国内外でも珍しい「コーストトレイル」（海岸線あり山道あり）です。コンセプトの「海わたり、街つなぐ」のとおり、砂浜や岩石海岸、砂丘、登山道など多様な道を歩きながら地球が創り出した雄大な自然、日本海に育まれた漁村、歴史文化といった日本海沿岸の原風景を楽しめます。黙々と歩いた先に広がる絶景は、体験した人にしか味わえないトレイルの醍醐味です。

山陰海岸ジオパークトレイルでエリアを横断しながら地元の宿に泊まり、温泉を楽しみながら松葉ガニや但馬牛、二十世紀梨や京たんどメロンなど四季折々のジオグルメに舌鼓を打つ…そんな贅沢な旅をぜひお楽しみください。



鳥取県鳥取市：鳥取砂丘



兵庫県豊岡市：青龍洞（玄武洞公園）



## 令和5年度 苗場山麓ジオパーク学術研究活動募集のお知らせ

苗場山麓ジオパークエリアを対象とした調査研究活動について、大学院生、研究者等を対象に地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学などの調査研究費の助成を行っています。1件あたり上限10万円。ただし助成対象となる研究は1人、または1グループあたり1件とします。

※詳細は苗場山麓ジオパークのホームページ（<https://naeba-geo.org>）令和5年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集ページをご覧ください。【応募締切】令和5年3月3日(金) ※当日消印有効